報道関係者各位

2026 年 11 月 5 日

株式会社 JDSC

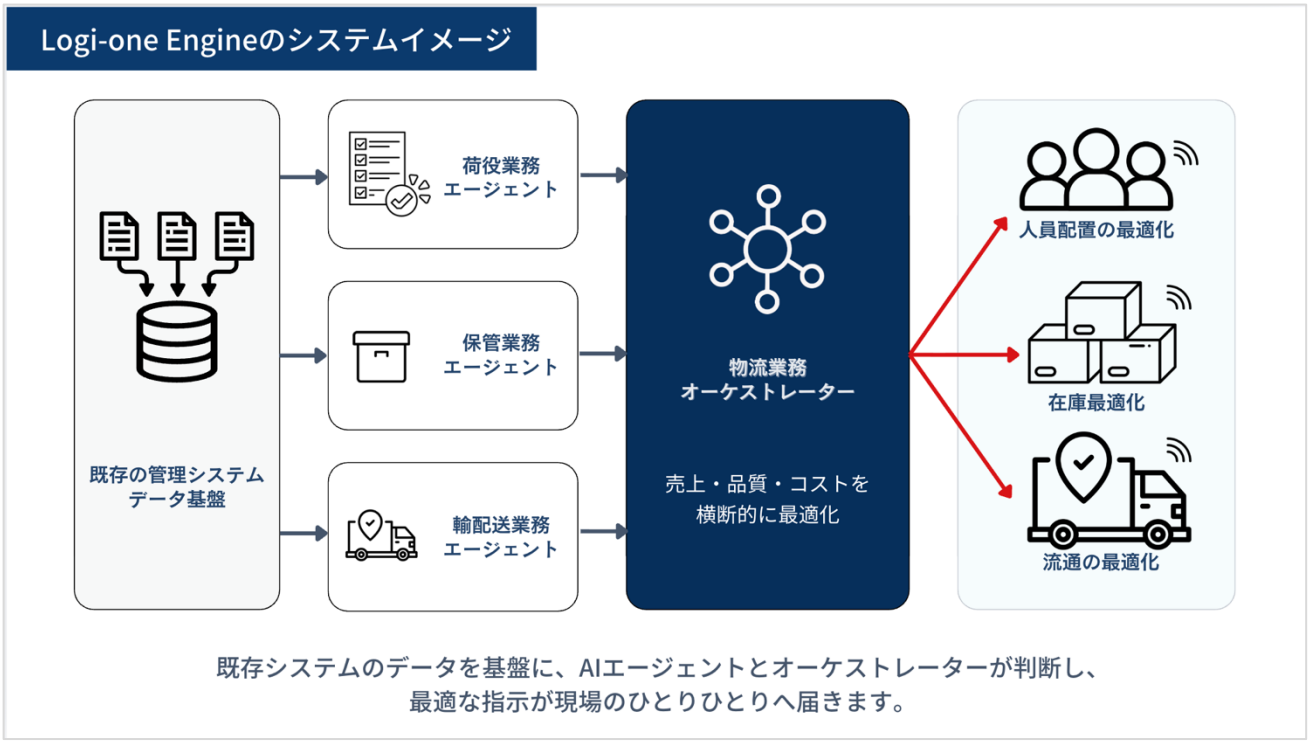
JDSC、物流最適化ソリューション「Logi-one Engine」提供開始

～倉庫・輸配送・管理業務を複数の AI エージェントで横断最適化～

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志/佐藤 飛鳥、以下 JDSC）は、倉庫・輸配送の現場から本社の管理業務まで、物流現場における意思決定を、AI を活用することで最適化するソリューション「Logi-one Engine（ロジワンエンジン）」の提供を本日より開始しました。あわせて、サービス紹介ページを公開しました。

「Logi-one Engine」は、荷役・保管・輸配送などの各業務を担う AI エージェントと、それらを統括する「物流業務オーケストレーター」で構成されます。トラックの遅延や早着といった日々の変動や、気候の変化による需要の変動などに応じて作業計画を自動で組み直し、現場の一人ひとりに最適な指示を届けます。

Logi-one Engine 紹介ページ：https://jdsc.ai/solution/logi-one-engine/



図：Logi-one Engine のシステムイメージ

物流業界では、ドライバーの時間外労働規制や人手不足を背景に、限られた人員でいかに生産性・効率性を高めるかが大きな課題となっています。しかし現場では、労務管理や作業計画の多くが拠点責任者や熟練担当者の経験に依存しており、人が変わると同じ品質を維持しにくいのが現状です。
また、トラックの遅延や早着など日々発生する変化に対して柔軟に対応するために、計画を人手で組み直すには時間がかかります。また、日々の日報や在庫確認などにかかる工数や、物流の状況に合わせた最適な人員の配置など、人が実際に手を動かしている業務が多く存在します。

従来の WMS（倉庫管理システム）や TMS（輸配送管理システム）は各領域の管理に長けている一方、領域をまたいだ全体最適の判断は人に委ねられてきました。JDSC はこうした現場と管理の分断を AI でつなぐため、「Logi-one Engine」を開発しました。

■「Logi-one Engine」の概要

「Logi-one Engine」は、既存の WMS・TMS・シフト管理などのデータを基盤に、荷役・保管・輸配送の各 AI エージェントが作業計画を最適化します。上位の「物流業務オーケストレーター」が API を通じて各エージェントを連携させ、売上・品質・コストを俯瞰した全体最適の判断を行います。

【他の物流システムとの比較】

物流の現場では、領域ごとに異なるシステムが使われています。WMS は倉庫内の在庫や入出荷を管理し、WES は倉庫内の作業を作業者やマテハン・ロボットへ割り当てて実行を制御します。TMS は配車や運行計画など輸配送を管理します。「Logi-one Engine」はこれらを置き換えるものではなく、各システムのデータを基盤に、領域をまたいで全体最適を判断する上位の仕組みです。

	Logi-one Engine	一般的な WES	一般的な WMS／TMS 運用
倉庫・輸配送それぞれの計画管理	○	○	○
複数領域を横断した統括判断	○	△	×
変動へのリアルタイム再最適化	○	△	×
現場指示配信手段の多様化（音声・スマートグラス等）	○	×	×
管理業務（請求・支払等）の AI 自動化	○	×	×
導入から運用改善までの一気通貫支援	○	△	×

※○：標準で対応　△：部分的・個別対応　×：対応領域外（当社調べ）

【主な特長】

1. 倉庫・輸配送の作業計画を自動最適化 入出荷・保管・運行情報をもとに、AI エージェントが作業計画を自動で組み立てます。属人的な計画立案を標準化し、担当者が変わっても同じ品質を保てます。
2. 変動に応じたリアルタイム再最適化 トラックの遅延・早着や人員の充足状況などの変化を受け、AI エージェント同士が連携して計画を自動で組み直します。
3. マルチデバイスでの現場指示配信 最適化された指示を、スマートフォンアプリの通知や音声、スマートグラスなど現場に合った手段で届けます。両手を使ったまま作業を止めずに、日報まで自動で記録できます。
4. 管理業務の AI 自動化 請求書の入力・突合作業を AI が担い、人による確認は例外対応のみに絞り込みます。
5. 業務の集約・標準化によるガバナンス強化 拠点や企業ごとに異なる業務プロセスを標準化・集約し、共通の KPI で横断的に把握できるようにします。

【提供形態】

JDSC が、対象業務・拠点の特定と効果試算から、AI エージェントの構築、既存の基幹システムとの連携、導入後の運用改善まで一貫して支援します。導入時には、物流拠点の運営や輸送コストの最適化の実績を持つシニアエキスパートが伴走します。拠点最適化、庫内生産性向上、自動化導入（ロボット、マテハン、WMS）、倉庫建築支援まで幅広く対応します。

■今後の展開

JDSC は、まず倉庫・輸配送の作業計画最適化と現場への指示配信から提供を開始します。今後は請求・支払い等の管理業務の自動化・シェアード化、さらに共通 KPI によるグループ経営基盤としての可視化へと対象を広げ、他業種への展開も計画しています。さらにフィジカル AI との連携により、計画から現場作業の実行までの自動化を進め、他業種への展開も計画しています。

■担当者コメント

株式会社 JDSC インダストリーAI 事業部　シニアディレクター　黒田洋輔

「我々の生活を支えている見えない部分とも言える物流の現場の効率化やコスト最適化が、急速に求められています。すでに多くの物流現場を管理するシステムが存在していますが、そのデータや状況を把握し、どう・何を・いつ実行するのかの最終的な判断は、人に委ねられているのが現状です。『Logi-one Engine』は、それらのデータを元に動く AI エージェントを束ね、最終判断を行うだけでなく、現場に対しての指示出しまでも行えるプラットフォームです。物流現場に携わる人々だけでなく、物流業界

そのものの最適化を実現していきます。」

■株式会社 JDSC について　https://jdsc.ai/

JDSC は、AI エージェントとデータサイエンスを核に、日本の基幹産業の変革を進めるテクノロジーカンパニーです。製造・物流・インフラ・公共などの現場に深く入り込み、DX や AX による意思決定の高度化から、フィジカル AI による現実世界の最適化・自律化までを実現。社会課題を解決する新たな産業スタンダードを創り、日本のアップグレードに貢献します。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 JDSC 広報担当　海藤（カイトウ）　Email：info@jdsc.ai　電話：080-9087-0193